

<今朝の聖書から>

村上定幸

【サマリアは外国】ここでいう外国というのは、国境を隔てた外国、あるいは異なる民族という意味合いよりも、異なる信仰を持っていた人々の住むところという意味合いで用いられています。もともとイスラエル人がカナンに入ってから、やがてソロモンの死後に、北王国と南王国に分裂しましたが、その後の長い間に、南のユダ王国と、あまり行き来がなくなり、異教の神々をも並行して崇拜するようになっていきました。BC.721 北イスラエル王国滅亡後、エルサレムからは荒れ果てた地、田舎、異郷の地というように見られるようになってしまった場所です(北イスラエル王国の首都の名、またその周辺)。聖書で、この地域の様子をよく示しているのが、ヨハネの福音書 4 章に出て来る“スカルの井戸端”での描写です。ヨハネ 4:9 には“すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである”とあります。

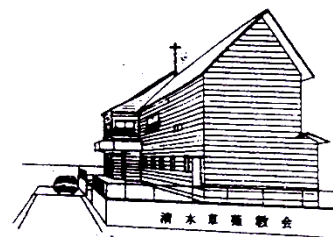
【癒しの奇跡】福音書に記されている主イエスの働きのそうとうの部分は、奇跡と関係しています。弟子たちには、自然界に対する超自然的な奇跡も示されました。神様に対する信仰があり、願いを申し上げた時に、その信頼にこたえるかのように、また友の執り成しのいのりの成就のために、病に対する癒しが記録されていることが多いようです。今朝の箇所でも、“私たちが憐れんでください(13 節)”という願いと、“祭司に見せに行く”という能動的な行為に応える形で説明されています。もう一度思い出しましょう。奇跡は“抑圧の中にある人々の益としてなされる”のであって、帽子の中から鳩が飛び出すというような、奇術とは全く関係のないものなのです。らい病を患っている人々の、解放はまず、当時の宗教的指導者に、身体を見せ、“癒され清くなった”という宣言を受け、社会復帰が許されるというようなものでした。

【異邦人を含む人々にも】十人のうち、何人がサマリアの人であったのか分かりませんが、主に讃美の捧げものをするために帰って来たのは、異邦人、サマリアの人でした(16 節)。ここにイエス様の隣人愛を見ることができます。“あなたは、福音を信じ悔い改めにより、まことの神に立ち返りますか、などとは確認しておられません。”癒して頂きたい“という願いは信頼がなければできませんが、まず癒しが先行しています。どうも今の教会は、それがどの程度のものか別にしても、揺らぎない信仰を確認しているようです。聖書のこの記事は後から、確認がなされている素晴らしい出来事です。日本聖書協会の聖書には、地球のマークが記され、その下に”神の言葉すべての人に開かれて”とあることがあります。”主を信ずる人に”とはありません。

【教会の異邦人】教会に元々集っていた人が、久しぶりに来ると(何処でもそんなところありますが)、何となく緊張感が持ち込まれるような時があります。特に、何かいさかひがあって、集わなくなった人が戻って来た時などです。まず喜びがあることを思い出しましょう。奉仕はその方に委ねられているのです。

週報

2011年 7月 17日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042